

|     |                                      |     |       |
|-----|--------------------------------------|-----|-------|
| 取材先 | 檜原ゆうあい会                              |     |       |
| 企画名 | 第2回 諏訪山城と史跡探訪 ～ 中世山城と肥中街道を散策         |     |       |
| 備考  |                                      |     |       |
| 取材日 | 2020年12月6日(日)天候[晴れ]<br>[13:30~15:30] | 取材地 | 豊田町檜原 |

レポート

肥中街道は、大内盛見氏が朝鮮貿易のために山口道門前から檜原を経て肥中浦まで60キロを整備しました。室町時代の肥中浦は博多への往来や明、朝鮮との重要な交易港で大内氏にとって重要な街道でした。大内氏の重臣朝倉弘詮は諏訪ヶ原に居館を構え、諏訪山城主となり母の菩提寺として妙栄寺を建立しました。

史跡探訪では、この妙栄寺に集合し下関市教育委員会の中原氏と檜原ゆうあい会事務局、柴田さんの案内で諏訪山城と肥中街道を散策しました。中道を通り、豊北町へ抜ける「平成の肥中街道」バイパスの向こうに諏訪山城が見えてきました。山城の特徴は、山頂が平らになっておりそのまま横に平坦になっているところだそうです。稲見川の橋を渡り、山城へと登りました。山登りは苦手なのですが、木の葉が散った柔らかな上を歩いたので疲れることなく登ることができました。山城には分かり易く山城の構造を示す立て札が設置されており、整備もされ構造をわかりやすく見ることができました。諏訪山城の一番の見どころは長大な豎堀が特徴で、曲輪（くるわ）も3つありとても防御性の高い山城だと中原氏は言われました。また、お寺や神社、山城、集落がすべて揃っているところはめずらしく、山城の持ち主がわかっていることも大変めずらしいことだとも言われていました。山城を下り、地元の小学生と交流している「学びの森」を紹介していただきながら、諏訪神社まで歩きゴールしました。

檜原ゆうあい会は、地域資源を活かした協働の地域づくり「持続可能な、自然と歴史の学びの郷」として肥中街道や里山の維持・整備、歴史ウオーク、花植え、伝統文化親子教室、郷土史講座などの活動をしています。整備された街道や山城のある檜原を散策し、会のみなさんの日頃の活動を見ることができました。諏訪山城や檜原の歴史に興味のある方は是非、檜原ゆうあい会を訪ねてみてください。

状況写真



教育委員会、中原氏(右)と事務局の柴田さん(左) ←

諏訪山城 (山頂が平らで、向かって左側が平坦になっている)

諏訪神社 ←

見どころ!(長大な豎堀) ↓

学びの森